

IKENOBKAI NEWS

池戸会報

香川大学農学部同窓会 池戸会

池戸会

検索

<https://www.bikita.jp/class/index.php?cl=d05997>

特集

メタセコイア命名80周年三木茂博士生誕120周年

三木茂博士とメタセコイア

農学部新学生食堂「KITCHEN～AGU～」オープン

表紙写真 ▶ 太古の森のメタセコイア

母校の近況

Interview 野村 美加

同窓生訪問 池戸会本部報告 卒業生のひろば

Vol.
63
DEC. 2021

全会員配布

Contents

特 集

- 「三木 茂博士とメタセコイア」… 3
「香川大学農学部新学生食堂」…… 6

ご 挨拶

- 池戸会会長 杉本 利行… 8
香川大学農学部長 秋光 和也… 9

母校の近況 …………… 10

卒業生へのメッセージ
～令和4年3月末をもって退職される教員より～ … 11

Interview

- 植物と土壌微生物の共生進化
野村 美加先生 …………… 12

同窓生訪問

草野 崇一さん（学27） …………… 14

池戸会特別企画…………… 15
農学部卒業生が多数勤めている
富士産業株式会社の「AROMA de mask」

池戸会本部報告…………… 16

訃報…………… 20

- 笠井 忠 先生…（令和2年12月御逝去）
住友 昭利 先生…（令和2年12月23日御逝去）
木暮 秩 先生…（令和3年1月28日御逝去）
久保 利文 先生…（令和3年4月御逝去）
岩原草二郎 先生…（令和3年9月23日御逝去）

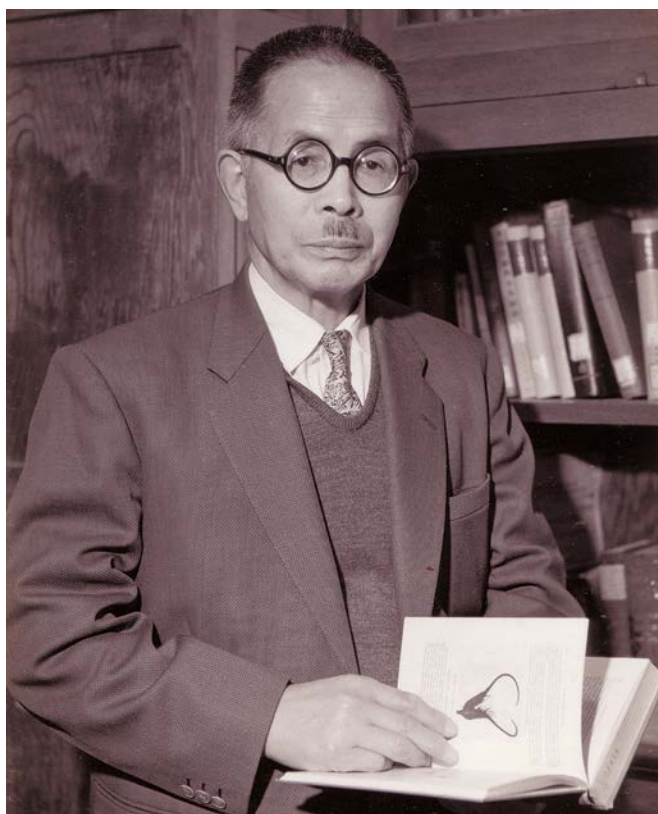
逝去者一覧…………… 24

卒業生のひろば…………… 25
支部だより

令和2年度会員短信…………… 29

池戸会 Bikitaご利用手順…………… 34
池戸会 クレジット決済の手順 …………… 35

ikenobekai News



三木 茂 博士（1901-74）
1963年、大阪市立大学の研究室にて（大阪市立自然史博物館提供）



ティラノサウルスのオブジェ



恐竜のオブジェとメタセコイアから太古の森を彷彿させる

三木 茂博士とメタセコイア

2021(令和3)年は、三木茂博士(香川県立農林学校第12回卒業生、大正6年度卒)の生誕120年、さらに「メタセコイア」命名80周年のメモリアル・イヤーです。これにあわせて、東京上野の国立科学博物館の企画展「メタセコイア～生きている化石は語る～」(2021.1.26～4.4)、三木町文化交流プラザ「三木茂博士とメタセコイア展」(2021.4.17～25)、香川大学農学部「特別講演 生きている化石メタセコイア-三木茂博士による化石発見から80年・塚腰実氏・大阪市立自然史博物館外来研究員」(2021.9.27)が開催され、五色台少年自然センター「メタセコイア～三木茂博士から学ぶ～」記念展示(2021.11.19～2021.12.19)、香川大学博物館・特別展「メタセコイア～生きている化石～」(2022.1.4～2022.2.12)が開催されます。

三木博士は、1901(明治34)年に現在の香川県木田郡三木町に生まれ、本学の前進である香川県立農林学校に入学し、植物採集と観察に夢中になります。1918(大正7)年に卒業後、さらに勉学を深めたいと盛岡高等農林学校に進学しました。その後研究の道を目指し京都帝国大学理学部に入学し、1925(大正14)年に植物学科を卒業して同理学部助手となりました。研究テーマは水湿地植物で、30歳の時に宇治近くの青色粘土層から植物遺体(つぶれただけの落ち葉のような化石。生々しい保存状態なので、化石ではなく遺体と呼んだ。)を発見した後は、日本各地で化石採集を行い標本作りと調査研究を続け、1938(昭和13)年に理学博士となります。1941(昭和16)年の論文で、和歌山から得た球果と岐阜から得た小枝の植物遺体標本をもとに、セコイアやヌマスギとは異なる新属として「メタセコイア」属を創設しました。1945(昭和20)年に中国四川省の奥地で神木として残っていたメタセコイア現生種が発見されたことから、「生きている化石」と共に三木博士の名が世界に知られることになりました。

三木博士は大阪学芸大学(現、大阪教育大)、大阪市立大学の教授を歴任し、武庫川女子大学の教授となった後、1974(昭和49)年に享年74歳でなくなりました。この間、1951(昭和26)年には昭和25年度の朝日賞を受賞、1962(昭和37)年には京都大学北村四郎教授らとともに「琵琶湖の生物相とその由来」と題して昭和天皇へ合同進講されました。

中国で発見されたメタセコイア原木の種子をアメリカの研究者が発芽させて育てられた苗木が、1950(昭和25)年に日本に100本届きました。故吉田重幸名誉教授(農大1)によると、この中の3本が三木博士の母校である当時の香川県立農科大学の玄関前・附属農場・太郎兵衛館(実験実習宿泊施設)前に植えられたそうです。この古代植物の増殖と育成の研究も進み、種子生産と接木繁殖が可能となり、各地にメタセコイアの苗木が配布植栽されていったのです。農学部のC棟西側にあるメタセコイアは、故吉田名誉教授らが林学研究室で繁殖されたものの一つだそうです。現在の農学部玄関前では、メタセコイアと共に、三木博士から送られたセコイアの苗木が今や立派な大木となっています。

三木博士は、根気と手間のかかるプレパラート標本を約25,000枚(1)、アルコール液浸標本約1,500瓶、論文109報を遺しました。こうして地道な努力を積み重ねた研究成果は、植物学・古生物学・地質学にまで幅広く貢献するものでした。

本学で伸び続けるメタセコイアを見ると、偉大な先輩を忘れずに語り伝えたいと強く思います。

- (1) 粉川昭平・塚腰実・百原新・南木睦彦(2006) 三木茂博士収集 植物化石および現生植物標本目録。大阪市立自然史博物館 収蔵資料目録 第38集。254pp.

太古の森

三木町にある「讃岐百景」のひとつである「山大寺池」のほとりにメタセコイアが生い茂る太古の森があります。太古の森はその名のとおり太古の日本に生い茂っていたメタセコイアと恐竜のオブジェが展示されています。太古の森には日本一の本数である2,700本ものメタセコイアが植えられています。



2,700本ものメタセコイアが植えられており、日本一の本数を誇る

三木茂博士資料館

三木町鹿庭の三木茂博士生家跡に三木茂博士資料館があります。資料館は、三木茂博士生家跡地に1993年に栗林公園などを手がけられた川原一圃（かわはらいちほ）氏の設計で、地元の石とともにメタセコイア、セコイア、ヌマスギなどが植樹されています。資料館の庭園は、メタセコイアの緑が美しくよく手入れされており、これは“三木茂博士資料館を守る会（佐々木信行会長）”などの地元の有志を中心に毎月第一日曜日の午後に手入れや清掃作業が行われよく管理されて

いるためです。清掃作業のときに資料館が公開されており、誰でも資料館を観覧することができます。フランスからの観光客がバスで来られることもあるという三木町の隠れた名所となっています。蔵を改造して作られた趣のある資料館には、三木茂博士が生前交流した研究者との手紙や写真、メタセコイアの化石、三木博士が化石採取に愛用したリュックサックなどが展示されており、三木博士の研究だけでなく人柄までもがわかるように整備されています。

一般開放は毎月第一日曜日。入館無料。問い合わせは佐々木会長まで（087-899-0405）。



三木茂博士生家跡の石碑



メタセコイア（落葉樹）とセコイア（常緑樹）とヌマスギ（落葉樹）が植えられている。それぞれの葉の形などを観察して比較すると違いがわかります



ヌマスギの葉（左）とメタセコイアの葉（右）。これらは、セコイアのように段を作らず、1年分の枝であり、落葉樹であることを示している



セコイアの葉（枝が段を作ることから常緑樹であることがわかる）



資料館庭にあるメタセコイアの実生（種子から芽生えた個体）



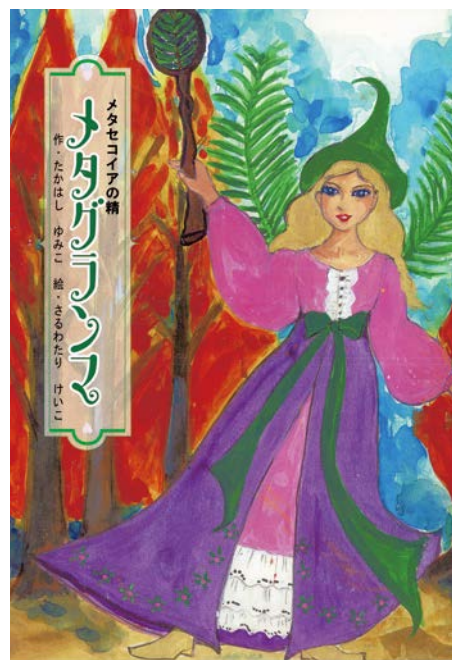
三木博士が生前交流した研究者との直筆の手紙（三木茂博士の功績を調査している鹿庭緑氏により手紙の解説がされている）



三木博士が化石採取で愛用したリュックサック



お車で越しの際は、資料館駐車場をご利用ください



メタセコイアを題材にした絵本「メタセコイアの精 メタグランマ」
作：たかはし ゆみこ氏、絵：さるわたり けいこ氏
絵本は学校の図書館などに寄贈され、児童への教育を通して三木茂博士のメタセコイア発見の偉業の普及に一役買っている

謝辞：本記事を作成するにあたり、三木茂博士資料館を取材させていただいた三木茂博士資料館を守る会の佐々木信行会長、鹿庭緑氏、三木義美氏、絵本をご提供頂きました高橋由美子氏に厚く御礼申し上げます。また、本原稿について事前に読んでいただいた大阪市立自然史博物館・外来研究員の塚腰実氏に感謝申し上げます。

約 50 年ぶりに農学部に新学生食堂ができました。



2021年7月26日

香川大学農学部**新**学生食堂

「KITCHEN～AGU～」オープン



算学長の挨拶



深井農学部長の挨拶



来賓の皆様（左より、望岡生協理事、川池理事、算学長、深井農学部長、平川学生代表、杉本池戸会会長、仁尾後援会会長）

農学部新学生食堂～AGU～の紹介



明るい食堂内、窓側にはカウンター席も設置されています（全体で約160席）



南側にはテラス席が設置されました（約30席）



ドリンクバーもあります

お世話になった農学部食堂 (会報55号参照)



昭和42年頃の食堂（現在の池戸会館付近）
奥に見える木（赤枠）は現在も確認できます



昭和47年に建てられた先代の食堂。約50年間
お世話になりました



新食堂AGUは、青枠で囲まれた位置に建てられました（先代食堂の東側）



ご挨拶

池戸会会長 杉本 利行 (学16)

池戸会会員の皆様には、益々ご清栄の事とお慶び申し上げます。池戸会報第63号をお届けするに当たり、一言ご挨拶申し上げます。

日頃より池戸会活動にご理解・ご協力いただき、厚くお礼申し上げます。池戸会としては、昨年度に殆ど出来なかった活動を本年度は是非再開させようと考えておりましたが、引き続き新型コロナウイルスの感染拡大の繰り返しにより実施出来ませんでした。特に、東京オリンピック・パラリンピックの開催に伴う感染拡大の大きな山が訪れ、全国的に集団での活動が大きく制約を受けることになってしまい、同窓会活動も同様に、全くと言っていいほど行うことが出来なかったことは誠に慙愧に堪えません。計画しておりました、池戸会の評議員会、総会は開催を中止して書面議決に変えざるを得ませんでした。また、各支部活動、同期会等の開催支援も、各支部総会自体を全く開催することが出来なかったことから、実施することはできませんでした。また、同窓会活動活性化対策に関しても同様に、ホームページ(Bikita)の利用促進に関しても、塚腰実講師による特別講演“生きている化石メタセコイア”をオンライン配信することをお知らせしたのみです。本年掲げた目標で唯一出来たのは、会費納入率向上のためのクレジットカード決済です。一方、学内活動支援に関しても、ソフトボール大会や収穫祭が中止となり、協力することができなくなりました。今後、“Withコロナ”を考えた場合、同窓会活動にもリモート会議システム等の活用を考えていかなくなるかかもしれないと思っております。

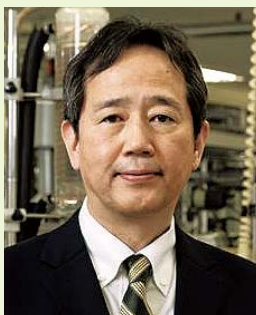
池戸会として、将来的に安定した財務体質を維持して会報の全員配布を今後も続けていく事を考えた場合、決して安心できる状況ではありません。池戸会は、新入生の入学時に納入していただく入会金と卒業後

の会員の皆様からの年会費によって運営され、母校の発展への貢献、在校生への支援、地域社会とのつながり、会員相互の親睦と啓発を軸に活動しています。一方、令和元年11月には全学的な卒業生の活動組織として校友会が発足し、池戸会の場合と同様に入学時に会費の納入をお願いしています。現在、会員の皆様の会費納入率が決して高くなく、今後も活動を維持していくためには、その向上を促進していかななくてはならず、積極的なご支援をお願いしたいと思っております。それらをもって、同窓会活動への参画をはじめ、卒業生相互のネットワークづくりの場として、引き続き池戸会への関心を寄せていただきますようお願い申し上げます。

現在、世界中が新型コロナウイルス感染症の影響を受け、私達の生活のみならず、母校の香川大学農学部運営にも多大な影響を及ぼしているなかで、何をすることも感染予防の行動制限が要求されており、時代の変化に応じた活動を行っていくことが求められていると思っております。このような状況下、これからは役職員が一丸となって同窓会活動を活発に続けられるように、困難の時期を乗り越えて行きたいと思っています。活動を活発に行っていくためには、ワクチンの接種が広く行き渡り、コロナ禍が終息に向かうことを願うばかりですが、皆様方のご理解、ご協力の程、何卒よろしくお願い致します。

最後になりましたが、会員の皆様のご多幸とご健勝を祈念し、あわせて母校の益々のご発展を願って、ご挨拶とさせていただきます。

農学部長



着任のご挨拶

香川大学農学部長 秋光 和也

池戸会会員の皆様、日頃より香川大学農学部 of 教育研究活動に様々な形のご支援を賜り、誠に有難うございます。心より厚く御礼申し上げます。

このたび、10月1日付で深井前学部長の後任として着任させて頂きました。どうぞ宜しくお願い申し上げます。ご縁あって1994年に当学部の植物病理学・助教授として採用して頂くまで、大学院生・研究員として米国のミシガン州にいました。人口の大部分はミシガン州立大学関係者であるイーストランシング（East Lansing）という州都の隣の田舎町にいましたが、7年住む間にキャンパスチャペルで結婚式を挙げ、長男はこの町で生まれました。日本への直行便があるデトロイトの国際空港まで車で1時間、ヤオハンという大きな日本のスーパーがあるシカゴまでは3時間かかりましたが、時折買い出しに出かけては母国産の食材を買い込み、懐かしい日本料理を口にしていました。植物病理学の分野で高名だった谷先生、山本先生、真山先生は存じ上げていましたが、それまで当学と大きな繋がりもない海外在住の研究者を公募で採用下さり、心より感謝しながら太平洋を越えて三木町を訪れた26年前の日が懐かしく思い出されます。

農学部は数年前に大改修が完了して、今では26年前とは全く別の趣を持つ学舎となりましたが、大変明るく快適な教育環境が整いました。何森名誉教授が始められた農学部発の希少糖研究も全学レベルで発展し、連携企業のご努力下希少糖専用の大規模工場がメキシコにて竣工・稼働し、本年10月には希少糖D-アルロース（=D-プシコース）結晶が全国のマーケットに上市されました。用途も食品に留まらず、農薬・医薬・工業資材等への利用に向けて様々な開発が進んでいます。全国でご活躍中の池戸会の皆様も「希少糖」とお聞きになられた際には、母校の農学部キャンパスで分離された微生物の新酵素から、希少糖イノベーションの全てが始まったことを、周りの皆様にも是非お話し下さい。

新型コロナウイルス感染症拡大の中、恒例の収穫祭も残念ながら昨年に続き中止となり、支部会・同窓会の開催もままならぬと存じますが、引き続き母校へのご支援のお気持ちを賜りますようお願い申し上げます。コロナ禍の終息後は、新しくなった農学部キャンパスを是非お訪ね下さい。在校生・教職員一同、皆様のご来学を心よりお待ちしております。



令和3年11月8日 学部長室にて池戸会会長と新学部長との対談
和やかな雰囲気の中、池戸会と農学部が今後も互いに協力していくことが話し合われました

母校の近況 NEWS

教員の採用



令和3年4月1日
助教 **水田 圭祐**



令和3年10月1日
助教 **福留 光孝**



令和3年7月1日
助教 **松沢 智彦**



令和3年10月1日
助教 **大野健太郎**



令和3年7月1日
助教 **石井 統也**

教員の昇任

令和3年4月1日
教授 **森本 兼司** (酵素利用学)

令和3年12月1日
准教授 **加藤 志郎** (希少糖酵素工学)

令和3年4月1日
准教授 **川崎 淨教** (動物栄養学)

令和4年1月1日
准教授 **Kong, Lingbing**
(Rare sugar organic chemistry)

令和3年12月1日
准教授 **望月 進** (希少糖遺伝子工学)

学会賞

望岡 亮介先生

「日本原産野生ブドウの園芸学的利用」という研究
題目で、日本ブドウ・ワイン学会技術賞を受賞さ
れました。

吉原 明秀先生、**秋光 和也**先生、**何森 健**先生
および松谷化学工業の研究者による共同受賞

「希少糖の実用化 ～ブシコースの大量生産に係
る研究開発および応用研究～」という研究題目で、
第70回日本応用糖質科学会 技術開発賞を受賞し
ました。

杉山 康憲先生

「2型糖尿病の糖毒性におけるインスリン発現抑
制機構の解析」という研究題目で、第72回日本電
気泳動学会総会にて「第60回日本電気泳動学会児
玉賞」を受賞されました。

卒業生へのメッセージ

～令和4年3月末をもって退職される教員より～

生物生産科学コース 深井 誠一先生

平成2年4月に、それまで9年間務めた大阪府を退職して香川大学農学部にて講師として赴任しました。香川大学初の留学生担当講師席での採用でした。このため前任者はおらず、机とスチール本棚、そして何もない実験台が中央にポツンと置かれた2スパンの部屋からの出発でした。あれから30数年間、色々ありましたが内外の多様な学生とともに、花き園芸の様々な分野の課題に幅広く取り組めたことは、本当に幸せなことでした。おかげ様で最後まで植物の世界にワクワクしながら仕事ことができました。また最後の4年間は学部長として農学部の運営に関わり、この点でも多くの同窓生の皆様にお世話になりました。今後は高松の郊外で自由農業者として、アカデミズムとは一線を画した植物相手の生活を送ります。最後になりましたが、池戸会の益々の発展と同窓生皆様のご多幸をお祈り申し上げます。



1991年岡山大学花卉研究室訪問



2019年メキシコにて

応用生命科学コース 藤田 政之先生

まずは、お断り申し上げねばなりません。本稿を執筆しているのは、コロナ禍で重症者が増加し、死者も毎日報告されている2021年8月です。皆さんが目出度くご卒業され、私が退職します翌年3月には、事態が好転していることを心よりお祈り申し上げます。

さて、私が本校へ赴任したのは、1983年7月です。26歳で、博士の学位も取っておりませんでした。所属は食品学科、食品衛生学研究室（写真1）でしたが、その後、学部は改組を繰り返し、結果として応用生物科学科植物科学領域（植物ストレス応答学（写真2））ということで落ち着きました。私が赴任した当時は、外国人留学生は稀でしたが、今では農学部は国際化し、多くの留学生が見られる様になりました。このことは、私個人の研究活動においても、活力を与えてくれました。現在、私の業績を調べましたところ、本、学術誌特集（編集）32；本の章、総説（執筆）72；学術論文（執筆）147報；となっております。



（写真1）



（写真2）

オリンピックでは日本は大変な好成績を上げましたが、今後も若い人たちの国際的な人間力に期待したいと思っています。ご健闘お祈り申し上げます。大変有難うございました。

生物生産科学コース 松村 伸二先生

卒業を迎える皆さん、おめでとう。そして今後のご活躍を祈念しております。この私も皆さんと共に農学部を去ることになりますが、着任を入学とすれば私は40年生の途中で卒業ということになります。一足先に退職された片山先生、麻田先生、合谷先生、池田先生は皆さん1年先輩ということになり、私の方は実年齢でも最下級生になりますが、この一年坊主に親しく接していただいたことを覚えています。以来、40年近く共に研究生活を送ってきた先輩方が徐々に農学部を去っていくと、ついに私の番がやってきたという感じです。卒業生の皆さんや先輩方の思いと同様、これまでの農学部の多くの方々のご支援とご指導に感謝いたしたいと思います。



植物と土壌微生物の共生進化



のむら みか

野村美加

Mika Nomura

編集委員：野村先生が香川大学農学部に着任されるまでの経歴をお聞かせいただけますか。

野村先生：母校は本学の教育学部なんです。学部時代にはリパーゼ（酵素）の研究をされていた川瀬先生に色々と教えてもらいながら、農学部の田島先生、何森先生、麻田先生の授業も受けていました。出身が名古屋ということもあって、卒業後、大学院は田島先生から紹介された名古屋大学へ行くことにしました。修士・博士課程時代の研究テーマは、塩性植物がなぜ塩気のあるところでも生育できるのか。グリシンベタインというアミノ酸の一種を植物体内に溜めることで浸透圧を調節しているのですが、これを遺伝子レベルで研究していました。その一方で、C3植物とC4植物の光合成に関する研究も手掛けていたんです。特に光合成の炭素代謝に関わる酵素の研究。炭素代謝と窒素代謝はよく似ているのですが、現在の研究テーマの柱になっている分野です。ちょうど博士課程を修了するタイミングで農学部の教員公募があって、母校で研究を続けることになりました。

編集委員：農学部に着任されてからは根粒菌の研究に着手されていますよね。

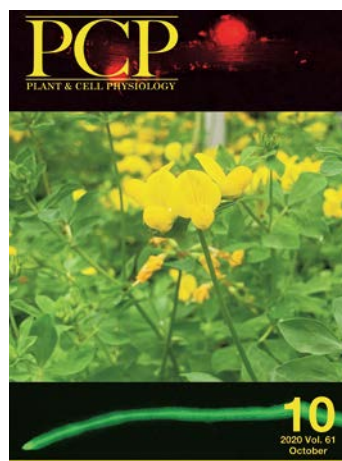
野村先生：はい、根粒菌の炭素・窒素代謝に関わる研究を行っています。C4植物の光合成で働いている重要な酵素にPEPC（ホスホエノールピルビン酸カルボキシラーゼ）がありますが、窒素固定を行う根粒でも同じPEPCが重要な働きをしています。学生時代から、C3植物からC4植物へ進化していく過程でPEPCが遺伝的にどのように進化して、特異的な酵素になったのか、一番興味がありました。PEPCという酵素が根粒でも働いている、なぜ根粒にも？PEPCを制御している転写因子は何か？これが現在の主な研究テーマです。

根粒菌について最近面白いことがわかりました。根粒菌が植物の中に入っていく際に異物は遮断されるのですが、SNAREというタンパク質が働くと根粒菌の道案内をしてくれる。これは花粉管が伸長するときと同じ現象ですが、根粒菌が根に侵入するときに形成される感染糸の伸長と花粉管伸長に働いている遺伝子が2つに分かれて、1つは感染糸伸長に、も

う1つは花粉管伸長に作用することがわかりました。博士課程の学生が頑張った研究成果ですが、国際専門誌Plant & Cell Physiologyの表紙を飾ったんですよ。

編集委員：香川県にちなんだ研究も手掛けられているそうですね。

野村先生：香川県特産の和三盆もサトウキビから作られているのですが、沖縄のサトウキビより細くて小さい品種です。京都なんかで売られている高級な和三盆は、香川県と徳島県の県境周辺で少しだけ生産されているサトウキビから作られています。サトウキビは根粒を付けないけれど微生物が根に共生して窒素固定しているんですよ。沖縄の痩せた赤土でも育つのはこのためなんですね。サトウキビの品種によって共生している微生物群集も違います。修士課程の学生がケニアのサトウキビを取ってきてくれて、その微生物群集を解析したらやっぱり全然違う。この群集組成の違いが和三盆の味や香りにも関わっているのかな？実は香川で栽培されているサトウキビと共生する微生物群集の研究がほとんどなくてそのからくりはよくわかりません。これがわかってくると面白いんですけどね。



Plant & Cell Physiology誌
61巻10号の表紙

Profile

野村 美加（のむら みか）

教授、博士（農学）（名古屋大学）

専門分野：植物栄養学

<https://www.ag.kagawa-u.ac.jp/nomura/>

卒業生の皆さんへのメッセージ

研究を振り返ると皆さんとの思い出が一緒によみがえってきます。今後ますますのご活躍を祈念いたします。

同窓生訪問



富士産業株式会社 研究開発センター 指導役

草野 崇一 さん (学27・食品学科)

今回の同窓生訪問は、富士産業株式会社研究開発センター指導役の草野崇一さんにお話を伺いました。大分県ご出身の草野さんは、食品学科を卒業後に日研化学株式会社に入社され、平成5年に富士産業株式会社へ移られ、長年に亘って健康補助食品のための基礎研究から応用研究に携わってこられました。富士産業株式会社ではニンニクやカイアポイモ（南米原産のサツマイモ）を用いた健康補助食品の開発を行ってこられ、その有用成分の決定から作用機序までを明らかに、特許の取得や学術雑誌での発表と、基礎から開発まで多くの成果を出されています。今回はお時間を作っていただき、学生時代、社会に出てからの様々な経験談などを交えてお話を頂きました。

編集委員：はじめに香川大学農学部入学の動機についてお聞かせいただけますか。

草野さん：元々農学部に行きたくて、その中でも当時は珍しかった食品学科が面白そうで香川大学農学部の食品学科に入学しました。食品を食べた後にどのように機能するのかということを学びたかったからです。

編集委員：農学部での思い出について

草野さん：食品栄養学の研究をされていた鈴木博雄先生の研究室に所属してからはラットを用いた研究に取り組んでいました。ラットに高脂肪食を食べさせて、筋肉や肝臓などの臓器中のトリグリセリドや遊離脂肪酸量などに与える影響を解析していました。一つの実験でラットを6・8匹／群くらいを解剖して、臓器を解析するのですが、当時キットなどは無くて生化学的に解析するため、1日に一群当たり2匹くらいしか解析できませんでした。来る日も来る日もラットを飼育して解剖して測定するという毎日でした。生物の世話もしないといけなかったこともあり、休みの日も関係なく実験していて、とにかく忙しかったことを憶えています。

編集委員：富士産業でのお仕事について

草野さん：最初に就職した日研化学でも富士産業に移ってからも一貫して研究を行ってきました。富士産業では、最初にニンニク食品の開発がテーマとして与えられました。また、南ブラジル原産のサツマイモであるカイアポイモを用いた健康食品の開発も手掛けてきました。これらの食品がどのように健康に対して機能するのかを明らかにするため、その有用成分を決定してその生理作用を解析していきました。その他にも、たくさんスクリーニングを行い様々な生理活性物質を同定していきました。中でも、ポンカンの皮を麹カビで発酵したものから得られた脱メチル化ノビレチンが抗炎症効果を持ち、認知症やアンチエイジングなど様々な効果を持つことを明らかとしました。

編集委員：これまでに多くの生理活性物質を見出して特許

化して製品化までされてきましたが、今後の見通しはいかがでしょうか？

草野さん：これからの日本は3人に1人が65歳以上の超高齢化社会に突入します。健康で長生きするためにQOL（Quality of life）を高めることが大事になってきます。健康を維持するためには健康補助食品の開発が必要不可欠です。私の研究は食品から有用成分を見つけ出し、それがマウスやヒトにどのように効いているのか解析して商品化することです。この実験結果は学術論文で発表するのですが、実際に商品化された後にどれくらい見てもらえるかは分かりませんが、実際に効くということを明らかにすることは重要だと考えます。

編集委員：最後に、池戸会の他の会員や在学生に向けてメッセージをお願いします。

草野さん：農学部で学んだこと、農学部で経験した研究を活かして、社会に出てからも実践していくことで活躍して欲しいですね。



草野さんと開発に携わった富士産業の商品



研究開発センターの研究室での草野さん

池戸会特別企画

農学部卒業生が多数勤めている富士産業株式会社の

「^ア^ロ^マ^デ^マ^ス^ク AROMA de mask (マスクに貼ってアロマ香る)」を 抽選で **10** 名様に プレゼント※!!

※AROMA de mask ベルガモットブレンド(30枚入)をプレゼントいたします。

「マスクが手放せない今、だからこそマスクライフを快適にした
い」というコンセプトで開発されたAROMA de mask。天然精
油100%のアロマシールをマスクに貼るだけの手軽さでマスク
の不快感をリフレッシュできます。柑橘系の爽やかな香りのベ
ルガモットブレンドなど多様なフレーバーを取り揃えています。



応募資格

令和3年度の会費を納められた池戸会正会員(80歳以上で会費納入を
免除された方を含む)および入会金を納められた池戸会準会員。

会報に同封のはがきに**プレゼント券**(このページ下部)を貼付して、郵便番号、現住所、氏名(準会員は
学生および保護者の両名)、電話番号、卒業年度(在学年次)、学科等、近況通信等を書いて下記まで郵送
して下さい。ご記入いただいた近況は池戸会報に掲載する場合があります。

送り先

香川大学農学部同窓会 池戸会事務局
〒761-0795 香川県木田郡三木町池戸2393 香川大学農学部内

応募締切

2022年3月18日 金曜日(必着)

当選者発表池戸会報64号(池戸会ホームページでも発表します。)

問い合わせ先

香川大学農学部同窓会 池戸会事務局 電話: 087-898-8615
E-mail: ikenobe-ag@kagawa-u.ac.jp

『鬼びっくり一味と手作り最中』当選者のお知らせ

池戸会報第62号でご案内しておりました池戸会特別企画「鬼びっくり一
味と手作り最中」に多数のご応募いただきましてありがとうございます。
厳正なる抽選の結果、10名の当選者を発表いたします。

平井 功様	白坂 正明様	島岡 龍夫様	渡辺 満様
村山 勝一様	永井 憲和様	武智 徹様	竹原 光一様
秦 英樹様	船本三千夫様	(順不同)	



池戸
63

AROMA de
mask
プレゼント券

池戸会 本部報告

令和3年度 池戸会本部役員

会 長	杉本 利行 (学16・農化)	理 事	平澤 正恭 (学18・食品)	
副会長	石川 肇 (学16・農工)		黒川 義夫 (学17・農工)	
	岡崎勝一郎 (学19・食品)		木村 義一 (学19・農学)	
	岩田 豊志 (学20・園芸)		千田 良信 (学19・園芸)	
顧 問	農学部長 秋光 和也		川東 敬幸 (学22・農工)	
	前会長 五井 正憲 (学8・園芸)		林 宏年 (学22・農工)	
評議員 (下記一覧表)			松原 智子 (学24・食品)	
監査員	松下 時夫 (学17・食品)		森末 民子 (学31・農学)	
	佐藤 孝治 (学23・園芸)		香西 敬子 (学34・農芸)	
理 事	丸尾勇治郎 (学30・農学)	香川県庁	多田 邦尚 (学28・農化)	総務
	高嶋 茂樹 (学29・農工)	高松市役所	木村 義雄 (学31・食品)	会計
	川崎 陽通 (学24・農工)	徳島	奥田 延幸 (学34・園芸)	総務
	中杉 光廣 (学21・園芸)	岡山	田淵 光昭 (学37・生物資源)	会報
	杉原 芳雄 (学15・農工)		渡邊 彰 (学38・生物資源)	会計
	片山 章 (学16・食品)		五味 剣二 (博15)	情報
			田中 直孝 (学40・生物資源)	学内活動
		幹 事	吉原 明秀 (学49・生物食化)	幹事
			杉山 康憲 (学50・生命機能)	幹事

令和3年度 各支部長及び支部選出本部評議員一覧表

支部名	支部長	評議員	評議員	評議員
大 学	多田 邦尚 (学28)	木村 義雄 (学31)	奥田 延幸 (学34)	
県 庁	岡崎 力 (学33)	丸尾勇治郎 (学30)	松平 和也 (学35)	
市 役 所	里石 明敏 (学31)	壺井多川士 (学33)		
三 木		杉原 芳雄 (学15)	森 宏樹 (学23)	
大 川	千田 良信 (学19)	國方 聖三 (学18)	松崎 朝浩 (学28)	
高 松 東 部	平賀 博 (学11)	片山 哲治 (学15)	林 宏年 (学22)	
高 松 中 央		(再生中)		
高 松	木村 義一 (学19)	山本 洋一 (学19)	田辺 和司 (学20)	
高 松 西 部		片岡 浩一 (学5)	片岡 光孝 (学12)	
龍 雲	白坂 正明 (学1)	石塚 畠 (学1)	溝渕 昭七 (学1)	
高 松 南 部	川東 敬幸 (学22)	高尾 武司 (学19)	奈良 稔 (学22)	
小 豆	井藤 龍平 (学20)	前田 満照 (学21)		
香 川	新明 昇 (学16)	青木 敏 (学20)		
綾 川	小比賀和教 (学9)	西谷 寛昭 (学19)		
坂 出				
仲 多 度	平澤 正恭 (学18)	北山 信夫 (学19)	各務 好行 (学20)	
西 讃	永田 陽頼 (学20)	篠原 重寿 (学21)	近藤 博樹 (学34)	
愛 媛	矢野 庄志 (学4)	原 國紘 (学6)	山本 勝教 (学13)	
高 知	中澤 祥子 (学54)	和田 達夫 (学15)		
徳 島	川崎 陽通 (学24)	山出 省吾 (学19)	安富 範雄 (学19)	中西 健 (学24)
岡 山	尾野田瑞穂 (学26)	羽原 政明 (学17)	野村 正己 (学18)	猶原 順 (学27)
広 島	山口 泰治 (学17)	木村 博俊 (学17)	中山 長秀 (学22)	
島 根	桑原 克夫 (学22)	水野 正美 (学23)		
山 口	松原 賢治 (学17)	長山 幸範 (学28)	平田 良美 (学34)	
兵 庫	葛西 利延 (学8)	岩崎 俊一 (学15)	武田 和義 (学17)	田村 哲哉 (学34)
大 阪	柳川 和彦 (学26)	植原 米一 (専2)	大井 寛 (学11)	土居 修 (学18)
京 滋	米川 順一 (学27)	平川 潤 (学30)	清水 文雄 (学36)	
奈 良	那波 和志 (学27)	山本 英雄 (学14)		
東 京	祖父江 晋 (学22)	伊藤 研治 (学22)	井藤 智臣 (学23)	
三 重		高井 章 (学8)		
愛 知	鈴木 和昭 (学19)	外山 有一 (学18)	小田 利一 (学26)	

令和2年度 事業報告

1. 評議員会、総会の開催 令和2年6月21日（日）書面議決
評議員会のみ開催し、書面議決で代替
2. 名簿配布 要望のあった方で身元が明らかな方
3. 支部活動の援助 令和元年度卒業・修了生の名簿の送付
(希望された支部)
4. 支部総会の助成 開催支部への祝い金の贈呈、本部役員、
教員の出席（通年）
全ての支部で総会の開催ができず、助成
金の支出はなし。
5. 同級会及び個人会員へのサービス、会員動向調査（通年）
6. 池戸会報第62号編集発行、8,600部、全員配布（12月）
7. 学内活動
 - 1) 新入生への祝い品・会報の贈呈（4月・9月）
 - 2) 新入生からの入会金の徴収（4月～12月）
 - 3) 令和2年度卒業生・修了生に記念品（学位記ホルダー
等）の贈呈（9月・3月）
8. 池戸会活性化対策事業
コロナの影響で活動できず。
9. 令和2年度支部総会開催状況
すべての支部で総会の開催ができず。



令和2年度 収支決算書（一般会計）

（令和2年4月1日～令和3年3月31日）

収入額	6,101,446 円
支出額	4,492,336 円
差引残額	1,609,110 円

収入の部

費目	予算額 (円)	決算額 (円)	差引増減 (円)
前年度繰越金	1,136,734	1,136,734	0
会費	1,900,000	2,190,000	290,000
入会金	2,500,000	2,240,000	△260,000
寄付金	500,000	534,700	34,700
利息	0	12	12
雑収入	0	0	0
合計	6,036,734	6,101,446	64,712

支出の部

費目	予算額 (円)	決算額 (円)	差引増減 (円)
人件費	1,200,000	1,091,000	△109,000
旅費	400,000	102,858	△297,142
事務費	80,000	48,791	△31,209
通信費	1,200,000	1,260,215	60,215
事務室使用料	220,000	219,772	△228
会議費	20,000	1,727	△18,273
会報費	1,200,000	1,198,849	△1,151
支部総会助成費	200,000	0	△200,000
支部援助費	20,000	11,600	△8,400
同窓活動費	30,000	40,884	10,884
学内活動費	300,000	294,438	△5,562
振替手数料	200,000	222,202	22,202
雑費	0	0	0
予備費	966,734	0	△966,734
積立金	0	0	0
合計	6,036,734	4,492,336	△1,544,398

令和2年度 収支決算書（特別会計）

（令和2年4月1日～令和3年3月31日）

収入額	984,414 円
支出額	8,290 円
差引残額	976,124 円

収入の部

費目	決算額 (円)
繰越金	896,406
名簿収入	88,000
利息	8
合計	984,414

支出の部

費目	決算額 (円)
名簿作成費	0
送料	8,290
雑費	0
合計	8,290

会費（個人振り込み）地域別納入状況

令和3年3月31日現在

地域	県名	30年度(人)	元年度(人)	2年度(人)
四国	香川	606,000円 (264)	604,000円 (263)	542,000円 (259)
	徳島	88,000円 (43)	140,000円 (34)	86,000円 (41)
	高知	14,000円 (7)	46,000円 (17)	24,000円 (12)
	愛媛	40,000円 (19)	38,000円 (17)	52,000円 (26)
中国	岡山	230,000円 (105)	228,000円 (104)	340,000円 (116)
	広島	58,000円 (24)	56,000円 (27)	80,000円 (36)
	鳥取	8,000円 (4)	6,000円 (3)	6,000円 (3)
	島根	16,000円 (8)	20,000円 (10)	20,000円 (9)
九州	山口	40,000円 (16)	58,000円 (23)	48,000円 (24)
	福岡	28,000円 (14)	20,000円 (10)	28,000円 (12)
	佐賀	4,000円 (2)	4,000円 (2)	2,000円 (1)
	長崎	14,000円 (3)	16,000円 (8)	14,000円 (7)
	熊本	6,000円 (3)	8,000円 (4)	6,000円 (3)
	大分	36,000円 (14)	26,000円 (13)	36,000円 (18)
	宮崎	4,000円 (2)	24,000円 (8)	10,000円 (5)
	鹿児島	14,000円 (6)	8,000円 (4)	10,000円 (5)
	沖縄	6,000円 (3)	6,000円 (3)	8,000円 (3)
近畿	兵庫	178,000円 (76)	160,000円 (69)	170,000円 (80)
	大阪	150,000円 (68)	140,000円 (62)	120,000円 (51)
	京都	38,000円 (18)	48,000円 (15)	52,000円 (18)
	滋賀	24,000円 (12)	22,000円 (11)	18,000円 (9)
	奈良	16,000円 (8)	22,000円 (11)	24,000円 (12)
	和歌山	16,000円 (8)	30,000円 (11)	22,000円 (11)
東海	三重	12,000円 (6)	10,000円 (5)	12,000円 (6)
	愛知	62,000円 (31)	78,000円 (32)	78,000円 (28)
	岐阜	14,000円 (7)	4,000円 (2)	16,000円 (4)
	静岡	18,000円 (9)	20,000円 (8)	36,000円 (12)
	東京	62,000円 (27)	62,000円 (27)	56,000円 (22)
関東	神奈川	58,000円 (20)	60,000円 (23)	46,000円 (23)
	埼玉	40,000円 (16)	30,000円 (15)	32,000円 (16)
	栃木	8,000円 (4)	6,000円 (3)	4,000円 (2)
	群馬	4,000円 (2)		4,000円 (2)
	茨城	8,000円 (4)	16,000円 (4)	10,000円 (5)
	千葉	32,000円 (16)	44,000円 (17)	134,000円 (14)
	長野	10,000円 (5)	12,000円 (2)	8,000円 (4)
信越	山梨	6,000円 (3)	6,000円 (3)	6,000円 (3)
	富山	2,000円 (1)	2,000円 (1)	2,000円 (1)
	新潟	4,000円 (2)	4,000円 (2)	4,000円 (2)
	石川	6,000円 (3)	4,000円 (2)	4,000円 (2)
北陸	福井	6,000円 (3)	10,000円 (4)	4,000円 (2)
	福島	2,000円 (1)	4,000円 (2)	2,000円 (1)
東北	山形			
	宮城	2,000円 (1)	2,000円 (1)	2,000円 (1)
	秋田			
	青森			
	北海道	4,000円 (2)	4,000円 (2)	12,000円 (6)
北海道	北海道	1,994,000円 (890)	2,108,000円 (884)	2,190,000円 (992)
	前年比	+90,000円 (+71)	+114,000円 (-6)	+82,000円 (+38)
	うち個人振込	(+96)	(-33)	(+64)
	支部経由	(-25)	(+27)	(-26)

令和3年度事業計画

- 評議員会、総会の開催（令和3年6月20日 書面議決）
総会は中止とし、評議員会のみで開催とし、書面議決で代替。
- 支部活動、同期会等開催の支援
 - 支部総会等へ本部役員及び教員の派遣
 - 名簿情報等の提供
 - グループでの学内見学希望者のお世話
 - その他
- 同窓会活動活性化対策
 - 県外支部の再生・新設（卒業生が100名を超える県から）
昨年度に計画した活動は新型コロナウイルスの影響により計画したことが全く活動出来なかったことから、再チャレンジする。
 - 県内支部の活性化及び再編
将来を考え、何がベストかを導き出したい。
 - 学外会員による本部事業実施支援
 - ホームページ（Bikita）の利用促進
登録者数の増大と会員相互の活発な情報発信への活用促進。
- 学内活動
 - 新入生への祝い品・会報の贈呈（4月・9月）
 - 新入生からの入会金の徴収（4月～10月）
 - 第33回学内ソフトボール大会の主催（11月）
 - 農学部収穫祭への協力
 - 令和3年度卒業生・修了生に学位記ホルダーの贈呈（9月・3月）
 - その他
- ※上記行事計画等につきましては、新型コロナウイルス感染症の今後の状況により、出来る範囲で実施することとします。
- 池戸会報第63号の編集発行 全員配布

令和3年度収支予算書

予算額 6,209,110 円

収入の部

費 目	2年度予算額 (円)	3年度予算額 (円)	差引増減 (円)
前年度繰越金	1,136,734	1,609,110	472,376
会 費	1,900,000	1,900,000	0
入 会 金	2,500,000	2,200,000	△300,000
寄 付 金	500,000	500,000	0
利 息	0	0	0
雑 収 入	0	0	0
合 計	6,036,734	6,209,110	172,376

支出の部

費 目	2年度予算額 (円)	3年度予算額 (円)	差引増減 (円)
入 件 費	1,200,000	1,200,000	0
旅 費	400,000	200,000	△200,000
事 務 費	80,000	80,000	0
通 信 費	1,200,000	1,200,000	0
事務室使用料	220,000	220,000	0
会 議 費	20,000	20,000	0
会 報 費	1,200,000	1,200,000	0
支部総会助成費	200,000	100,000	△100,000
支部援助費	20,000	20,000	0
同窓活動費	30,000	30,000	0
学内活動費	300,000	300,000	0
振込手数料	200,000	230,000	30,000
雑 費	0	0	0
予 備 費	966,734	1,409,110	442,376
積 立 金	0	0	0
合 計	6,036,734	6,209,110	172,376

住所不明者一覧

本部事務局では、会員名簿台帳の作成・会報の配布・各支部への会員所在通知などのため、全会員の住所等を正確に保持するのに苦勞しています。現在、下記の方々の所在が不明です。ご存知の方はご面倒ですが本部までご一報下さい。本部の連絡先は、裏表紙に記載してあります。

令和2年度住所不明者一覧

--

会費納入のお願い

本会報に同封の郵便振替用紙またはコンビニ・郵便局兼用振替用紙にて、年会費2千円の納入をお願いします。数年分をまとめて振り込んでいただいても、各支部でまとめて納入いただいても結構です。なお、80歳以上の方は無料です。令和2年度会費納入者名簿を本会報に同封していますのでご参照ください。

来年度総会のお知らせ

令和4年6月19日（日）に農学部にて開催予定です。総会ですので、皆様ご出席下さい。出席される方は事務局までご連絡下さい。

訃報

追悼 笠井 忠 先生

笠井先生におかれましては、令和2年12月にご逝去されました。享年92（91歳）でした。

先生は昭和4年5月のお生まれで、昭和25年3月に香川県立農業専門学校、昭和29年3月に香川県立農科大学をご卒業されました。その後、昭和40年7月～昭和43年3月にかけて国立移管された香川大学農学部農芸化学科生物化学及び栄養化学第1研究室において米国農業研究助成金に関する研究補助業務に従事された後、昭和43年4月には香川大学農学部助手、昭和51年11月助教授に就任されました。昭和61年教授就任を経て、平成5年3月に定年退職されました。

この間、先生は、食品生化学・食品物性の分野で、多彩な研究をなさいました。ネズミ小腸のガラクトシダーゼに関する研究、ダイズの少糖類の加水分解に関する研究、ダイズ発芽時の α 及び β マンノシダーゼ活性と水溶性多糖類の変化、カラスノエンドウ種子の遊離糖類と青酸配糖体ピシアニンについて、タイズ種子からのピニトールの分離・同定、米粒、米飯、米飯粉中の水分の状態、矮性及び高性インゲンの芽生えの生育に及ぼす光の影響等、川村信一郎先生、鈴木裕先生、加藤尚先生らとともに多くの業績を残されました。

＜研究室の思い出＞

思い起こせば、研究室に配属されてまず行ったのは、付属農場での畑仕事でした。当時、笠井研では大豆種子の冷水可溶性多糖類、大豆発芽時の水溶性多糖類分



解酵素の研究を行っており、大量の大豆を使うため研究に使う豆を育成するのが私達、指導性の仕事でした。5月には種をまき、秋には収穫しますが、途中で枝豆として畑から数株を引き抜いては宴会をするのが密かな楽しみでした。収穫した豆からは、糖の抽出、恒温器での発芽作業をひたすら行っていました。研究自体は派手さこそありませんでしたが、「木の長きを求むる者は必ず根本を固くす」という言葉にもあるように、先生は気を長く私たちに接して頂き、社会に出るための基礎を寡黙ではありましたが教えて頂いたと感じております。当時の研究室での写真からも感じられますが、先生は温かなお人柄で、学生の教育に熱心であり、学生との交流を大切にされている様子がとても印象的でした。

先生のご逝去にあたり、衷心より哀悼の意を表し、ご冥福をお祈りいたします。

（今岡秀之 修士20卒、田島茂行 香川大学名誉教授）

追悼 住友 昭利 先生

60年以上昔の農場実習初日、他の先生方に続き、主事から「農場教官の中で一番若い花卉担当の住友先生」と紹介されたのが、先生との出会いであった。赤銅色の日焼けした顔に太い眉、大きな目、真っ白い歯、そして瘦身の割に野太い声、晴れやかな笑顔、先生の第一印象は今も鮮明である。

以後、実習の時には何度かお世話になっていたが、私が花卉園芸学（小杉教授）に分属してからは、頻繁に先生の教えを乞うようになった。その理由は、

① 先生は研究室の貴重な先輩（兄弟子）である。

② 当時先生は暖地シクラメンの育苗法の確立に取り組まれており、その整然とした実験現場と栽培技術は、球根の繁殖をテーマにした私の卒業論文に大変参考になった。

③ 当時の農場は、現在の廃水処理施設の所にあり、時間を見つけて行き来するのに便利であった。



住友 昭利先生

残念ながら、1963年に徳島県庁へ転出されたので、先生の教員生活は途切れてしまう。しかし、先生の専門は変わらず、私が花卉園芸学の道に進んだことで、関係は年々密接になっていった。

先生は1956年に香川大学農学部第1期生として卒業（園芸学科花卉園芸学）。母校の副手から、付属農場の花弁部門担当教員に就任。1963年4月故郷徳島県の技術吏員として転出後は、徳島県の花弁産業の発展を一身に背負い、栽培、研究、開発、普及の全ての分野で精力的に活躍された。1990年からの3年間は技術

系の最重要職である徳島県立農業試験場長を勤め、公的生活の締め括りとされた。

定年後は、マスコミなどを通じた園芸の普及活動にも力を注ぎ、自宅ではラン類や珍しい植物の手入れに余念がなかった。2020年12月23日急逝。折しもコロナ騒ぎの中お見送りは叶わなかった。

今に「五井さん、また一つ面倒なことを引き受けてくれませんか」と電話が掛かって来そうな気がする。行年88歳（合掌） 五井 正憲（学8、名誉教授）

追悼 木暮 秩 先生

名誉教授木暮秩先生は令和3年1月28日に90歳で永眠されました。ここに先生のご足跡やご研究の一端を記し、追悼の言葉に代えさせていただきます。

先生は、昭和5年1月のお生まれで、昭和28年3月北海道大学農学部をご卒業、同年4月香川県立農科大学助手として着任されました。その後、香川大学講師、同助教授、教授を経て平成5年4月、定年で退職されました。

この間、40年の長きにわたり、厳格な態度で学術研究に専念され、専門とする作物学分野では、特にソラマメを対象に研究を進められ、世界的に高い評価を得られておられますとともに、学位論文としてもまとめられました。また、その他の作物についても卒業論文指導学生の希望を採り入れながら研究を行い、その種類はイネ、ダイズ、サツマイモ、ジャガイモなどきわめて多岐にわたっています。いずれも、対象作物の栽培から始め、当時は1日に僅か10～20点程度しかできなかった炭水化物、窒素成分の分析に基づいて、作物の生育ならびに収量成立過程を物質代謝の側面から究明しようとするもので、大変なご苦勞をなさっておられました。同窓生が集まると、当時の苦勞話で盛り上がっている光景を幾度となく目にしております。

管理運営面におきましては、香川大学評議員、同附属図書館長などを歴任され、香川大学の発展に貢献されました。また、学会では、作物学関連の各種学会で



木暮先生ご夫妻

活躍されるとともに、特に「日本作物学会」では評議員、四国支部長として、また、講演会運営委員長（2回）、学会誌編集委員長として同学会の発展に大きく貢献されました。退官後は「タイ・チェンマイ大学植物バイオテクノロジー研究計画」のチームリーダーとして4年間タイ国に赴任され、同国研究者の育成にも大いに寄与され、国際協力にも大きく貢献されました。

帰国されてからは、ご実家の東京で過ごされていましたが、3年ごとに開催される研究室同窓会へのご出席には熱心でした。昨年もお会いできることを心待ちにしておりましたが、コロナ禍のために会が延期となり、誠に残念なことでした。

終わりに、木暮先生のこれまでの滋味あふれるご指導とご鞭撻に感謝申し上げ、心よりご冥福をお祈り申し上げます。

浅沼興一郎（香川大学元教授）

訃報

追悼 久保 利文 先生

久保利文先生は、2021年4月に逝去されました（享年80歳）。先生は、京都府立大学農学部をご卒業後、京都大学大学院農学研究科に進学され、農業経済学を専攻されました。

1969年に香川大学農学部へ着任後は、農産物流通学の専門家として37年という長きにわたり、教育・研究に取り組まれ、2006年3月に定年退職されました。

久保先生は、農産物流通問題の中でも、農産物の規格化の重要性にいち早く着目し、学術的にも多大な功績を残され、全国各地の農産物流通問題の解決にご尽力されました。その一方で、香川農林経済研究会会長のほか、香川県農業振興対策推進協議会会長、「かがわブランド」農産物推進プロジェクトチーム座長、香川県養殖魚トレーサビリティ導入検討会会長など、多くの農林水産行政の多岐にわたる要職を歴任され、香川県の農林水産業の発展に貢献されました。さらに、香川県農業・農村問題の解決手段として、農地問題とづくりに強く関心をもたれ、2008年には「地域農業の土地と担い手」という書籍も刊行されました。おりしも、現在の農政の柱となっている担い手の確保・育成、担い手への農地集積・集約や農地の有効利

用の重要性を予見されていたようにも感じます。

先生は空手部の顧問も務められていたこともあってか、学生指導は厳格でしたが、とにかく面倒見が良く優しい人柄から、他研究室の学生であっても、就職先の斡旋を熱心になさっておられました。また、多くの先生方が研究室に集まり、よく歓談されておられました。研究室に居ると、こうした歓談に加えていただくこともあり、講義では見ることができない先生方の一面を拝見しつつ、多くの、そして大切な事を学ばせていただいたことが強く印象に残っています。

先生の影響もあり、県職員となったあとも度々連絡をいただき、酒を飲みながら先進的な農家の考え方や農政の方向をご教示いただくなど、公私にわたり面倒を見ていただいたことは感謝に堪えません。

コロナ禍が収まったらお目にかかり、久しぶりに酒でも酌み交わそうと思っていた矢先の訃報は残念でなりません。久保先生への感謝の想いは筆舌に尽くし難いところではありますが、長年にわたるご厚情に深く感謝し、心よりご冥福をお祈りいたします。

大山興央（学32）

追悼 岩原 章二郎 先生

岩原章二郎先生におかれましては、令和3年9月23日にご逝去されました。享年87歳でした。

岩原先生は、昭和8年10月10日に高知県に生まれ、昭和31年3月高知大学農学部を卒業後、昭和33年3月京都大学大学院農学研究科修士課程を修了し、昭和33年4月から昭和37年3月まで島根農科大学（現・島根大学）助手、昭和40年3月京都大学大学院農学研究科博士課程単位修得退学後、昭和40年4月京都大学農学部助手、同年12月香川大学農学部（農芸化学科）講師、助教授を経て、昭和57年4月に同大学教授となり、平成9年3月に定年にて退職されるまで応用微生物学の教育・研究に努め、平成9年4月1日付けで香川大学名誉教授にられました。

この間、31年4月の長きにわたり、学部学生、大学院修士課程、博士課程学生の教育と学術研究に専念されました。専門とする応用微生物学の分野では「微生物によるビオチンの生合成に関する研究」により、日本農芸化学会の奨励賞受賞に輝かれています。また、木質資源の有効利用を目的として行った「微生物によ



S45年当時の岩原先生

るリグニンの分解に関する研究」においては、各種のリグニンモデル化合物の分解経路を明らかにして、従来知られている木材腐朽菌のほかフザリウム属のカビも自然界においてリグニンの分解に関与していることを明らかされました。さらに、「微生物の糖タンパク質の糖鎖の化学構造に関する研究」において、リグニンを分解するフザリウム属のカビが、今までに知られていなかった特異な多糖を生産し、多種類のオリゴ糖鎖および多糖鎖がタンパク質に結合し糖タンパク質として細胞壁中にこの多糖が存在していることを示されました。

ご退職後は、点訳ボランティアとしての活動を20年間行い、平成16年5月に「社会福祉法人日本盲人社会福祉施設協議会奉仕活動者表彰」、平成25年10月に「香川県社会福祉協議会会長表彰」(社会福祉事業奉仕者)、

「厚生労働大臣感謝状」が授与されました。

【研究室での思い出】岩原先生は、根っからの研究者で大学の雑務をこなしながら暇を見ては退職ギリギリまで研究をされていました。カビから抽出した多糖をゲルろ過カラムで分離されては、各フラクションの糖の定量を楽しそうに試験管を振りながらされているのが昨日のように思い出されます。退官記念講演では、退職直前に購入されたMacintoshコンピューターを使って大学院生の藤田清貴君（現・鹿児島大学准教授）にスライドの作り方を教えてもらいながらとてもきれいなカラースライドを作られて、これまでの研究人生について熱意を持って話されている姿がとても印象的でした。

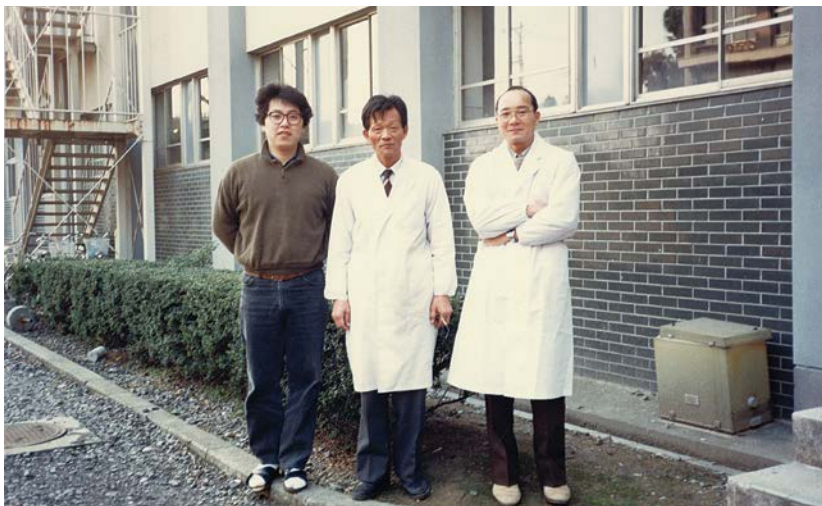
研究室では毎年庵治に釣りに行って、その後岩原先生のご自宅にお招き頂き釣ってきた魚を使った奥様の手料理を頂くのが研究室学生の楽しみの一つでした。大変お世話になった奥様も昨年末にご逝去されたとのことで謹んでお悔やみ申し上げます。

先生のご逝去にあたり、謹んでお悔やみを申し上げますとともに、ご生前のお姿を偲び、ご冥福を心からお祈り致します。

田淵光昭（学37・修25・博9）

田中直孝（学40・修28・博12）

竹川 薫（九州大学教授）



S63年 竹川先生、岩原先生、佐藤先生



H9年 退官記念講義にて

逝去者一覧

石川 俊夫	旧職員	令和2年6月17日	ご家族より	藤本 正文	学1	令和2年4月14日	返信はがきより
岩原章二郎	旧職員	令和3年9月23日	田淵光昭様(学37)より	杉村 和則	学3	令和3年4月3日	小比賀和教様(学9)より
金辺 正	旧職員		ご家族より	二宮 迪	学3	令和2年8月19日	返信はがきより
木暮 秩	旧職員	令和3年1月28日	農学部庶務課より	藤原 康容	学3	令和2年4月29日	返信はがきより
坂戸 信夫	旧職員	令和3年8月12日	農学部庶務課より	香川 孝行	学4	令和2年11月7日	ご家族より
三宮 和彦	旧職員	令和2年4月28日	返信はがきより	佐藤 昌弘	学4	令和2年3月	返信はがきより
住友 昭利	学1 (旧職員)	令和2年12月	五井正憲様(学8)より	谷本 亘	学4	令和2年2月27日	返信はがきより
久保 利文	旧職員	令和3年4月	仙田徹志様(学39)より	大崎 吉康	学7	令和2年8月10日	返信はがきより
田中 啓陽	旧職員	令和3年10月24日	ご家族より	中條 道崇	学7	令和2年4月8日	返信はがきより
岩澤 徳安	36		ご家族より	西浦 文雄	学7	令和2年11月12日	返信はがきより
白川 豊彦	35	令和2年11月5日	返信はがきより	辻本 好宏	学8	令和2年3月15日	返信はがきより
木村 栄	37	令和3年3月	杉本利行様(学16)より	森谷 忠造	学8	令和3年9月9日	新聞お悔み記事より
織田 照夫	42	令和2年10月14日	返信はがきより	高本 征治	学10	令和2年12月29日	返信はがきより
筒井 正義	42 (44・農専2)	令和元年7月15日	返信はがきより	今吉 公一	学11	令和元年8月27日	返信はがきより
藤堂 郁雄	42	令和元年12月21日	返信はがきより	熊野 靖彦	学12	令和2年11月	徳本幸由様(学12)返信はがきより
笠井 忠	43 (45・農大1・旧職員)	令和2年12月	ご家族より	小西 博	学12	令和2年2月5日	返信はがきより
酒井 清二	43 (45)	令和2年7月24日	返信はがきより	平井 一弘	学13	令和3年4月28日	返信はがきより
飯間 幸夫	46		返信はがきより	近藤 義則	学14	令和2年5月	返信はがきより
奈良 徳松	46 (中1)	令和2年6月	返信はがきより	松岡 洋	学17 (修5)		返信はがきより
平岡 富雄	47	令和元年11月12日	返信はがきより	福永 重二	学18	令和2年7月26日	返信はがきより
木村 貞雄	中1	令和元年5月	返信はがきより	眞嶋 信一	学18	令和2年1月12日	返信はがきより
十河 晃一	中2	平成28年	返信はがきより	中 俊雄	学19	令和2年10月	岡崎勝一郎様(学19)より
川田 忠雄	農専1	令和2年9月28日	返信はがきより	金子 秀敏	学23	令和3年1月25日	返信はがきより
安西 豊	農専2	令和元年	ご家族より	渡辺 幸徳	学23	平成30年3月29日	ご家族より
伊藤氣和男	42 (農専2)	令和元年8月16日	返信はがきより				
野崎 伸夫	学1	平成30年6月	返信はがきより				

卒業生のひろば

支部、同窓会、会員短信

■みずほ会（旧瑞穂会）

みずほ会会長 里石 明敏（学31）

みずほ会（旧瑞穂会）は、高松市役所における香川大学農学部卒業の職員の親睦を図るため設立した会で、設立は昭和38年4月、設立後58年を数える伝統のある会でございます。

現在の会員数は39名で、平成26年度からは、今後の会の存続を図るため、工学部を卒業した職員も仲間に加え、農林水産に係る部署のほか、都市整備や上下水道など多岐に渡る部署において、それぞれの職場の中で責任を持って自身の職務を遂行し、高松市の行政に携わっております。

本会の事業としましては、池戸会会長を始めとする本部役員の方や農学部の先生をお招きして開催する総会及び懇親会のほか、以前は、一泊旅行等を実施して、会員相互の親睦を図っております。

令和2年度につきましては、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、総会は书面決議となり、懇親会も自粛しましたことから、今回は、会員が担当し、大きく進展している高松市中央卸売市場の近況をご紹介します。

高松市中央卸売市場（瀬戸内町）は、誰でも利用できる関連商品売場棟が令和2年度から「うみまち商店街」と名付けられ、飲食店を始めとする多くの店舗が開店しましたほか、多彩なアート作品の制作が行われるなど、多くの方が訪れて食事やアートなどを楽しみ、賑わっている様子が見られるようになり（別添写真）、今では、市場が注目を集めるスポットとして定着してきております。

今年1月には、市場独自のWEBサイト『Takamatsu Sea & Sun Market』を立ち上げ、旬の食材や「うみまち商店街」の店舗情報などを発信し、また4月からは、コロナ禍の影響により市場の取扱高が減少したことを踏まえ、新規の販路を獲得するため、オンラインショップ『Takamatsu Sea & Sun Market Online Store』を開設して、市場関係事業者が取り扱う新鮮な生鮮食料品などの販売を行っているところです。

長引くコロナ禍が一日も早く収束することを心から願いつつ、市民の皆様の生活環境が、より一層改善されますように、今後も、会員一同、日々精進を重ね、様々な事業を推進してまいります。

最後になりましたが、我々の母体であります池戸会及び各支部が、杉本会長様を中心に、ますますご発展されますよう、心からお祈り申し上げます。



うみまち商店街の状況



浜堂（さめきラーメン）に並んでいる風景



■広島支部だより

支部長 山口 泰治 (学17)

発足以来13回目となる昨年度(令和2年度)の支部定例会は、新型コロナウイルスの蔓延が収まらず、やむを得ないと判断して支部発足以来、初めて中止を決定し、次年度(令和3年度)に繰り越すことを役員会で決定しました。

本年度こそは終息し、開催できと思っていたのですが、オリンピック・パラリンピック東京2020大会開催中に、大きな第5波が襲い、9月末まで、広島県も緊急事態宣言の対象県となり、定例会はもとより、役員会の開催もままならない状況でした。

しかし、最近(9月末以降)は感染者が大幅に減少しており、緊急事態宣言も解除されたため、10月中旬にやっと、役員会開催にこぎつけました。

しかし、本年度(令和3年度)も、定例会予定の11月は、まだまだ気を抜けない現状から、残念ながら中止せざるを得ないと判断しており、最終的に役員会で決定の予定です。

今年の広島県は、夏に災害が発生し、施設や農作物にも大きな被害を受けましたが、一部地域に限られ、数年前のような大きな規模の災害は、今のところ発生していません。

一方日常生活は、コロナ禍で大きく行動が制限され、全体にフラストレーションがたまる中、野球もサッカーも、選手は頑張っていますがイマイチ調子が上がらず、本県では明るい話題も乏しい日々ですが、ワクチン接種もかなり進んでおり、行動制限が徐々に解除され、半分でも元の生活に戻れることを心から願っています。

来年こそは、スタンドで自由に応援でき、明るい話題を肴に自由に酒が飲める日常が戻る日を、また2年越しの定例会が盛大に開かれることを願って準備を進めたいと思います。

最後に、広島支部では、役員会で協議しながら、会を少しでも参加しやすくするため、懇親会の中に会員による肩のこらないなつかしい話題提供や講演を取り入れるなど、内容を充実し、気楽で参加しやすい会をめざしています。

来年は、会員の皆さんの積極的な参加をよろしくお願いします。

令和3年9月



広島支部役員会

■徳島支部だより

徳島支部長 川崎 陽通 (学24)

徳島支部では例年、10月の第4土曜日に支部総会を開催しております。しかしながら、昨年令和2年度はコロナ禍の中、やむを得ず支部総会を中止した次第であります。

また、年に数回実施している支部役員会につきましても開催の見通しが立たず、令和元年8月3日の役員会を最後に、現在令和3年9月までその開催を見合わせている状況です。そしてその間数度支部役員の方々への通知文書の発出を行うに止まっております。

徳島県下におきましても、令和3年9月時点コロナ感染の収束や状況の好転の兆しは見られず、令和3年10月予定の支部総会開催は困難と判断せざるを得ないのではないかと考えている状況であります。

以上のように支部活動にとって極めて厳しい状況が続く中、支部会員の皆様方の池戸会徳島支部への関心が薄らいでいくことの無いよう為す術もなくただただ祈るのみであります。

なお、徳島支部として前号の池戸会報62号(2020)への支部だよりを、当方の不手際により投稿できておらず、今回令和元年10月26日に開催した支部総会の写真を添付させていただきます。また、この総会時に支部役員の方々の交代議決があり新役員が選出されたのですが、新役員体制になって以降支部活動がコロナ禍により滞ってしまったこと、新支部長として心苦しく支部会員の方々への申し訳ない思いで一杯であります。



令和元年10月26日 徳島支部総会集合写真

■高松東部池戸会総会準備委員会の開催について 平賀 博 (学11)

高松東部池戸会は、本年が総会実施に当たっています。

残念ながら、国内で実施中の新型コロナウイルス対策が奏功せず、昨年決定した、「令和3年に支部総会を開催し、それ以降2年おきの開催に変更する」事項を再審議することを目的に、現在の役員を招集して、以下の概要で総会準備委員会を開催しました（正式には、次の支部総会での議決が必要）。

開催日時：令和3年8月11日 10時00分～11時45分

場 所：株式会社ロジック会議室（高松市新田町甲2190番地3）

参加役員：平賀 博（学11）、岡晃一郎（学12）、片山哲治（学15）

林 宏年（学22）、黒川幸重（学25）



1. はじめに

東部池戸会会長であり社会福祉法人「吉祥」理事長でもある平賀博氏から、事業者の立場から、現在の新型コロナウイルス対策では、施設利用者への面会ではリモート面会になっている説明をいただき、当会の総会実施の時期について、展望を述べていただいた。

2. 年次総会の再延期及び開催方法について

新型コロナウイルス対策の進捗やワクチンの接種状況を基に、総会を令和4年に再延期することとし、社会情勢が好転しない場合は、書面で総会を開催し、懸案事項を処理するものとした。

3. 記念講演会

三豊市では、近年多発する河川の氾濫など豪雨災害から安全に避難するために、今年7月から、YouTube動画で、ハザードマップの活用策と適切な避難行動に必要なタイムラインの設定方法を配信しています。この動画の作成に携わった林会員が、内容の解説を行いました。（文責：学22 林 宏年）

■高松龍雲支部だより

高松龍雲支部長 白坂 正明 (学1)

高松龍雲支部は、高松市内の仏生山校区、多肥校区、三溪校区及び一宮校区内に居住する池戸会本部会員を構成員として、昭和53年2月に支部規約を制定（支部年会費千円・支部会員死亡お悔み5千円）し設立して現在に至っております。設立当初の支部会員数は83名でほとんどの会員が総会・親睦会に出席され賑やかなものであった。

初代の支部長は、故七条雄一先輩（木田農19回大正13年度卒）で、当初の支部の構成は、香川県立木田農卒60名、農専卒2名、農大卒2名、農学卒19名で合計83名であった。設立から42年を経過した現在は、先輩方が亡くなり新しく会員



になってくれる卒業生が少ないため現在の支部の構成員は、県立木田農卒6名、農大卒1名、農学卒9名で合計16名となった。設立当初から支部会費千円と本部会費も同時に徴収し、また懇親会費4千円を徴収していたが、今年は新型コロナウイルス禍で総会は中止となった。昨年の総会で支部年会費は、今後徴収しないこととなり、懇親会費のみを徴収して毎年総会と親睦会を開催して、お互いに情報交換し親睦を深めることとなった。

高松市内の6支部の親睦会を盛大にするために高松市内の6支部を統合した合同親睦会にして6支部が順番で当番になってお世話することを提唱したい。高松市内の支部長にご検討をお願いいたします。

初代の龍雲支部長故七条雄一先輩時代の懐かしい総会の記念写真が見つかりましたので掲載します。

■奈良支部近況報告

奈良支部長 那波 和志 (学27)

世界を席卷したCovid-19（新型コロナ）でⅡ年間支部会議が中止となりました。1年に1回、同じ大学を卒業したと言うだけで集まる異年齢の集団。2年連続で中止とせざるを得なかった今年、同窓に何故かシンパシーを感じている自分に改めて気がつきました。それは、香川での少なくとも4年間その地のものを食しその風土で学んだものが獲得した何かの縁のなすものかもしれません。支部として何もできたわけではありませんがこの災難が収束した際には、近畿一円の支部合同で同窓としての縁を確認したいと妄想しています。

■岡山支部だより

岡山支部長 尾野田瑞穂 (学26)

岡山支部は、総会・懇親会を毎年10月上旬に開催しておりましたが、新型コロナウイルスのため、昨年、今年と2年続けての中止となりました。恒例の行事となっていたので開催できないことは誠に残念なことです。また、この懇親会を楽しみにしておられる方には、大変申し訳なく思っております。

来年は、コロナ禍が終息していることを願い、また、ワクチン接種をほとんどの方がされていると思うので、大勢の人の出席をいただき、盛大な総会・懇親会が開催したいと思っています。

■兵庫支部だより

事務局 武田 和義 (学17)

兵庫県池戸会は、隔年ごとに開催しています。前回は、令和元年に近畿合同で奈良県にて開催しました。今年は開催の年ですが、緊急事態宣言が発令されており、今後の収束もなお不透明なことから開催できそうにありません。次回は、令和4年に神戸で開催いたしますので、参加をお願い致します。例年どおり7月の第1日曜日を予定しています。

さて、休日は淡路島の実家で百姓をしています。明石海峡大橋を車で渡るのですが、よく白亜のフェリーを見かけます。白い波をたてながら快適に進んでいます。夜には、明るい照明が目に残ります。調べてみると、ジャンボフェリーのように神戸港から高松港へ向かっている船でした。1日に4便あるらしく、4時間あまりで着くことができます。結構快適な船のようです。学生時代は、関西の同窓から里帰りにはよくフェリーに乗っていることを聞きました。船に乗ると旅をした気分になれるような気がします。近いうちに乗ってみたいと思っています。

■島根支部

島根支部 桑原 克夫 (学22)

前回の支部会は令和元年の11月に出雲市で10人ほど集まり、事務局からは奥田先生にお越しいただき、久しぶりに開催しました。その時は、「どれだけ集まるかわからないが3年後やろう」という話でした。しかし、コロナ禍の中、開催は難しい状況にあります。

私ごとになりますが、今年の夏は山陰地方には何度か大雨で、我が家の野菜を作っているビニールハウスが何度か水に浸かってしまいました。7月の大雨の時にはわざわざ五井先生からメールまでいただきました。本気で農業を行っている方々にとって、不安定な気候は大変な時代だと感じているところです。

来年度は、池戸会の総会が開催されることを願っています。



IKENOBEKAI NEWS vol.63

会費納入および住所調査のお願い

本会報に同封の郵便振替用紙又はコンビニ振込にて、年会費2千円の納入をお願いします。数年分まとめて振り込んでいただいても、各支部でまとめて納入いただいても結構です。(80歳以上の方は無料です。)また、この会報送付時の宛名紙に印刷された返信ハガキにて最新住所情報等をお寄せ願います。なお、本会報の発送業務は印刷会社に委託しました。

池戸会報 vol.63

発行：2021年12月

印刷：2021年12月

発行所：香川大学農学部池戸会

〒761-0795 香川県木田郡三木町池戸2393

TEL・FAX 087-898-8615

E-mail: ikenobe-ag@kagawa-u.ac.jp

郵便振替口座 01620-1-5001 (香川大学農学部池戸会)

編集担当：多田 (学28)、木村 (学31)、奥田 (学34)、

一見 (学37)、田淵 (学37)、渡邊 (学38)、

田中 (学40)、五味 (博15)、山口 (修32)、

米倉 (修32)、吉原 (学49)、杉山 (学50)、

松沢 (学53)、田坂 (事務局)

印刷所：小野高速印刷株式会社

〒870-0913 大分県大分市松原町2-1-6

TEL 097-558-3444 FAX 097-552-2301

